

広島コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 6 年 1 月 31 日（木） 午前 10 時 20 分～12 時 15 分

場 所：広島コミュニティセンター

参加者：23 名

担当者：市長、山田、冨田（広島市民センター）、堀瀬、横井、林（高齢者支援課）、
長楽、小山（生活環境課）、塩田、中原（広聴広報課）

1. あいさつ

（所長）

ただいまから令和 5 年度みんなでまちづくり市長と語る会を開催させていただく。本日の司会進行を務めるので、よろしく願います。本日の会は、次第に沿って 1 時間半程度、12 時頃の終了予定とさせていただいている。最初に、広島地区連合自治会並びにふれ合いのまち広島をつくる会、横瀬会長よりご挨拶をお願いします。

（会長）

寒い日が続いており、市長との懇談会ももう少し早めにすれば良かったが、地域の都合と市長の都合もあって 1 月末の今日になったが、大勢の方が寄っていただき感謝申し上げます。市長には先週も島へ来ていただき、皆さんとお話ができ。今週も来ていただき、感謝申し上げます。

島の状況はコロナ感染が始まりだしてから、それまでもずっと少なくなってきた人口が、今年までの間に急にまた一段と世帯が少なくなっている。島にいる人の住み慣れた所にずっといたい気持ち、そうした人達のことを考えながら、今日は島の福祉、移住について、それと去年の 5 月から小手島の学校が休校になっており、学校の再開ができたらいいが、学校利用について、地域の中でどうやっていったらいいか、こういった話を皆さんの意見として出していただいて、市の方と懇談したいと思う。

（所長）

続きまして、丸亀市長よりご挨拶をいただきたい。

（市長）

今日は大変楽しみにしてまいった。広島の皆様には、丸亀市政に対してご理解とご協力、ご支援をいただき、まずは心から御礼を申し上げます。先日、港待合所が完成し、そのオープニングの際もたくさんの皆様方にお世話になった。感謝申し上げます。

最初に少しだけ能登の話をさせていただく。能登で大災害大地震が起こった。七尾市は丸亀市と 50 年来の親善都市であって、昨年度の夏も祭りに招待されて行っている。丸亀市としては、能登の災害に対して応援をしていこうと強く思っている。今現在も、5 日から市の職員 3 人が常時七尾市職員の手伝いをいろいろやっており、一番は作業が多いと聞いているが、常時 3 人が手伝う形をとっている。4 月以降も状況に応じて、七尾市が望むことをしていこうと思っている。

また、うどんの炊き出しについては、8名が先週の木曜から行き金・土で1日1,000食、計2,000食の炊き出しを行い、大変好評であったと聞いている。また皆様方におかれましても、応援支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は市長をさせていただいて、4月で丸3年になる。まだまだ新米だが、日々、元気なまちづくりに一生懸命取り組んでいるところである。本当にご理解・ご支援をいただき感謝申し上げます。

議員16年させていただき思っていたことは、日本中そうであるが、人口減少になっているので子育て支援が大事である。給食の完全無償化、18歳までの医療費無償化が議員時代に夢であった。予算がかなり大きくかかるので、夢として思っていたことが、昨年度4月から給食費の小・中学校完全の無償化、18歳の医療費の無償化が実現できた。これもひとえに市民の皆様方のご理解ご協力があったからである。そして職員の頑張り。今言った2つの施策ができているところは、私が知っている限りでは日本中でも丸亀だけ。もしかしたら、どこかやっているところがあるかもしれないが、本当に嬉しい。

私は広島に同級生が何人かいて、30代の時から同級生が集まって毎年夏に来ていた。40代の議員時代には、「島の活性化に力をいれてくれ」とずっと言われて続けていたが、議員時代はそこまで出来ていなかった。私は島がものすごくいいとわかっていて、いろんな方に来ていただきたい。なんといってもこの景色と空気感、風が大好きである。誰が来ても感じるができるので、この景色は世界有数の景色として発信していきたい。丸亀市の宝として活性化していきたいと思っていた。それとトリドールの栗田社長から、地域活性化包括連携協定を結ぶことを持ちかけていただき、市長になって1年で結んだ。それからよくしてくれるが、まだこれからが本番であり、移住の方々も住みやすい環境づくり、そのためには、トイレも早く作らなくてはいけない。

その他、もう少し丸亀のことを言うと、中讃地区の中心が丸亀で、2市3町で広域行政をやっているが、全部が一緒に良くならなければいけないと考えている。丸亀がいろいろな面で、産業、文化、芸術、教育、スポーツ関係、医療、介護、全部が充実したまち、そしてたくさんの方が観光として来てくれる、住んでもいい、そういうまちを一生懸命つくっていかうと思っている。そのためには、今までの『市長と語る会』の中で一番多くの方々に来ていただいて大変緊張しているが、忌憚のない意見を聞きながら元気なまちづくりに取り組んでいくので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 第1部 コミュニティ活動の紹介・意見交換会

(所長より出席者の紹介)

(所長)

それでは会に入らせていただく。本日の会は、2部制とさせていただいている。1部についてはコミュニティによる紹介ということで、地域の取り組みや課題等を紹介し、その後意見交換を行う。なお、意見交換については、あらかじめ質問事項を市へ提出しているのので、その点について市長から回答いただいた上でご意見ご質問を受けたいと思う。

コミュニティの紹介については、私の方からお配りしている『広島地区におけるまちづくりの課題』のタイトルが入った資料を使って説明をさせていただきます。

まず、島の人口と高齢化率。丸亀市が合併した平成17年の人口が3島で456人。令和6年1月1日現在の人口が広島146人、小手島28人、手島14人、合計188人。合併から20年ほどで半分以下、約60%減少しており、高齢化率につきましては、令和2年度の国勢調査で74.5%

こうした人口減少と高齢化が続く中で、2.の島の取り組みについては、現在、広島地区においては、主に3つの組織がまちづくりを行っている。1つ目が、広島の7自治会と小手島・手島の2自治会の計9自治会からなる連合自治会と、自治会を中心に各種部会や団体等で構成する、ふれあいのまち広島をつくる会が主体となって、地域の行事、コミュニティ活動の推進、最近ではイノシシ対策など、地域の課題解決に向けた取り組みを市と連携しながら進めている。

次に地元の住民で組織するNPO法人石の里広島については、丸亀市から委託を受けてデイサービスや介護予防事業、島内コミュニティバスの運行、手島自然教育センターの指定管理業務を行っている。さらに令和3年の7月からは、日本遺産に認定されている尾上邸の宿泊事業。令和5年9月からは、島で唯一のガソリンスタンドの運営など、福祉や公共交通の維持、観光振興など多岐にわたる活動を担っている。

3つ目は、讃岐広島、小手島、手島活性化協議会を令和元年度に設立した。尾上邸を拠点に宿泊や体験事業を展開する他、丸亀市と包括連携協定を締結したトリドールと共創プロジェクトとしての待合所の改修を行い、さらなる情報発信交流基地として、関係人口の拡大、さらには移住定住促進など三島の活性化に取り組んでいる。そうした中、ここ数年で若い移住者や、島に関心をもってもらえる企業や団体、学校等が増えてきている。島の将来において明るい話題も増えてきている。

3.の島外との連携だが、トリドールホールディングスの社員1名が広島に移住して地域の方々と一緒に島おこしを行っていただいている。また、市内に会社を持つ三菱電機受配電システム製作所が、手島や広島において海岸清掃や登山道の整備等の環境保全活動を行っていただいている。古民家再生協会については、こちらも包括連携協定を締結し、島の空き家の活用に取り組んでいただいている。本四高速では、せとうち島塾をコミュニティセンターで開校して、環境保全活動等にも従事していただいている。大学関係は、香川大学、青山学院大学、同志社大学が、親子体験教室や島でのフィールドワークを実施していただいている。

こういった取り組みの近況としては、広島の宿泊施設が9件に増加している。昨年島に来ていただいた保健師による『島の保健室』が今年度オープンした。青木に移住されたTさんは、『島の笑学校』を開催し、著名な方々による講座などを開いていただいている。

広島の江の浦港の待合所がリニューアルオープンした。27日からピザの販売開始や石臼コーヒーの提供を行っている。センターすぐ隣のカフェと、その少し先のドッグランとがセットになって、3月中旬ぐらいに開業予定。若者の移住ということで、同志社大学の学生や台湾出身の女性、手島においては若い男女のペアが移住されており、民宿をやっていききたいと聞いている。

以上の島の現状を踏まえて、最後に今後の課題について。広島としては移住促進、特に令和7年

度の学校再開に向けた子育て世代の移住アプローチが重要になってくると考えている。もう1つが、待合所の管理運営、ここについては島の方々の雇用の場となっているが、今後持続可能なものにしていくことが重要。

次に小手島は、昨年休校になった小手島小中学校の利活用の検討。島民手作りのアート作品の修復、新設。瀬戸芸が2年後に控えていることから、小手島にもお客さんを集客する必要がある。移住者の受け入れということで、小手島については、広島、手島に比べて移住者少ない。

手島については、手島自然教育センターを現在、耐震工事の改修を行っているが、工事は遅れている状況で、来年度の5月頃の竣工予定、6月の再開を目指している。若い移住者と地元が連携し、スムーズな運営再開に努めたい。

他にも様々な課題が山積しているが、引き続き地元が主体となって丸亀市や島外企業団体と良好な関係を築きながら、移住促進をはじめ、島の課題に取り組んでいきたい。以上、コミュニティの紹介とさせていただきます。

引き続き、質問事項に入らせていただく。今説明した資料の最後の課題の中から、2つ質問をあげさせていただいた。質問については、会長から説明をいただき、市長から回答いただいた後で、回答や関連事項についてご意見、ご質問等をお伺いしたいと思う。では、1つずつ行いたいと思うのでよろしく願います。

(会長)

①の方は先ほども言ったように、高齢化がずっと進んでいる。元気に一生懸命、地域活性化ということで自治会の中で活動されている方々の年齢は70を過ぎている。そういうことで、その次に続く島の中で活動していただく人達、後の方々への引き継ぎが出来なくてはいけないと思う。その辺の市の考えも聞かせていただきたい。

令和7年4月から、広島の小学校、中学校が再開できることになっているが、今希望する家庭は1家庭。この1家庭で終わったら困る。島に移住される方をどういう形で呼びかけていくのか。そういったことも大切だと思う。このことについても、市の考えを聞きたい。

(市長)

まず市としても私としても、子育て世代の移住促進は本当に重要であると考えている。どのようなことを今、市がやっているかという、WEB広告を利用しながら移住者の体験談を発信、東京や大阪での移住フェアには必ず出展して、移住希望者に対しての具体的な相談を行い、丸亀市の島等の積極的な情報発信に努めている。

その中で売り込みの特徴として、島しょ部のみではあるが空き家のリフォームに補助金を出すこと。あと、家財道具処分の補助金。空き家を利活用することの説明を行っている。

また今年度からは、子育て世帯離島移住促進補助金を創設した。島に住んでくれる方には補助金を出しますよということで、広島など離島に移住を希望する方が現地視察をするときの宿泊費用、また引っ越しをするときの費用を補助する制度を開始している。

その他、令和元年度から国と県と連携して、東京圏 UJI ターン移住支援事業を国が中心で実施しており、丸亀市に移住して就業してくれる方へ支援金を支給する制度がある。2人以上の世帯に

は100万円。一緒に住んでいる家族が18歳未満の子がいる場合、子供1人につき100万円を支給する等移住の推進をしている。

この春に、来年度予算として3月議会に提出する予定であるが、子供たちの奨学金の返還支援制度を打ち出す。そういったいろんな部分で次の若い世代、子育て世代が丸亀、島に移住してくれるような形で取り組んでいる。

(所長)

市長からの回答、また移住促進全般に関してご意見ご質問等があればよろしく願います。

(コミュニティ1)

空き家に対するゴミ処理の費用を出すということについて1度書類をもらって見たが、なかなか年を取ったら難しい。できればセンターにきちんと説明をして欲しい。

それとこの前、丸亀市の協働事業として地域おこし協力隊を、市長も協力してどんどんやりましようとおっしゃっていたが、島しょ部にも目を向けていただき、できるだけお願いしたい。

(市長)

家財道具の処分について、担当より。

(離島振興室長)

空き家のごみ処分補助については、移住を促進するために設けた。今後、空き家を、移住者の方や島外から来られる方を迎えるための家として貸し出す予定がある方に限らせてはいただくが、その目的を持って使う予定がある空き家のごみ処分の補助として創設。まだ皆さんに十分浸透していないということで、また書類などをお持ちして、会長会などで説明させていただきたい。

(コミュニティ2)

“いろいろな体験”、“島にいらしてください”、“空き家対策”などいろいろ丸亀市が取り組んでいることはよくわかるが、島の現状を申し上げると、その受け入れ体制として動ける人間が非常に限られているのが現状。その辺を、行政の方で職員を送り込んでいただいて、受け入れができるように何か考えられないか。お金もかかることなどでいかがなものか。

(市長)

実際、高齢化も進んでいる。職員の方で何かあった時は来て欲しい、ということ？

(コミュニティ2)

そうである。

(市長)

職員が広島、手島、小手島に進んで来てくれると思う。今言われたような部分でのお手伝いで出来る部分があれば、それは市としてもどこでできるということは言及できないが積極的にしていきたい。

(離島振興室長)

連携させていただく。いつもお世話になっており、引き続きよろしく願い申し上げます。

(コミュニティ3)

今の話と少しダブると思うが、私は1年前に移住してきた。実際市役所に行っても、広島的情

報はあまりない。どういう島でどういう状況という説明も私は受けていない。今市長の話の聞いても、若い世代、子育て世代に対してはいろんな形で努力されているのは分かるが、我々高齢者からしたら、来た後は勝手にしてください。事前に情報をきちんと取っていないのが悪いと、市の職員に私は言われた。

私は他にもいろいろ見ているが、大概その場所で NPO なり地元の人達が立ち上がって、市がバックアップしてきちんとした説明があって、メリットデメリットの両方をきちんとした説明をして、その上で判断して来てください、というのであれば、みんな来ても失敗したと思わないだろうが、現実、私はここに来て失敗したと思える部分かなりある。その辺をやはりバックアップしていただいて、島民の誰かが立ち上がって、移住組の促進の担当者を作って、それを市の人達が援助する形が理想だが、現実に来てみるとそういう人達はいない。

市の職員も、島に対しての正確な情報を持ってない。ここがやはり非常に問題である。何人か移住したいという人達が、結局きちんとした情報がなくて、住まいを探しても見つからず、諦めて帰っていった人も現実にいる。こういうチャンスをきちんと活かさない移住促進は問題ではないか。個人的にそういう風に考える。市として、もう少し力を入れてやっていただきたい。

(市長)

移住してきて失敗だったと、そういう風に思われぬようしっかりと取り組んでいこうと思う。取り組んでまだ 2 年であり、本庁の職員等もまだそういうところが浸透していない。今言われたようなことも、今のご意見で気づいた。職員のいろんな説明や情報発信の説明、その後のいろんなフォローについても丁寧にわかってもらうようにやる。

(離島振興室長)

今市長からもあったが、この広島地区を含めて離島に対しての移住促進をやっていこうと特に力入れたのはここ 2 年ぐらい。その前から少しずつ取り組んではいたが、情報発信が非常に弱いところは自覚をしている。

移住促進をするにあたって、まずは補助制度を創設してお迎えする準備をしている。それから今お知らせすべき島の空き家の情報も調査をしており、特に広島だと今年度は会長をはじめ島民の方にアンケートもいただいて情報収集をしている。収集した情報について、持ち主の同意などをしっかり取り、外に出していける状況になるまではどうしても時間がかかるので、そのあたりを十分整理しながら公に出していきたいと思う。今は広島市民センターや離島振興室で情報を持っている形で、お出しできる情報を丁寧に聞き取りしながら出している状況である。

発信していくにあたっては、やはり移住してこられた方の生の声も伝えたいと思い、今年度の事業として移住して来られた方々のインタビューを取らせていただいて動画を作っている。出来あがったら SNS で発信してお伝えしていく。

それから補助メニューを取りまとめたチラシを配っている。例えば広島では以前から移住のご相談を自らしてくださっていた方もいる。生の声を伝えてくれる非常にありがたい活動をしてくださっている。今年度新たに移住相談員として任命をさせていただいて、相談に乗っていくという体制を少しずつ始めているのでもう少しお待ちいただきたい。今日いただいたご意見について、

出来ることは積極的に進めていきたいので、ご理解ご協力よろしくお願い申し上げます。

(コミュニティ 4)

一昨年 7 月に移住してきたが、私がなぜ移住してきたかという、瀬戸大橋があり、世界の船が通るこのようにすごい島を、日本中、世界中に知らせたいと思いやって来た。私達夫婦はあまり難しいことは考えない。やってきて、自分で家を壊して自分で勝手に直して山を切り開く。私は市からお金をくださいというのはものすごく嫌である。何故かという、もっと大事なことでお金を使わなくては行けないといつも思っている。ものすごく大事なことは、私達のように島に来て何も難しいこと考えなくても喜んでやっている人がいるということを見せてあげること。例えば瀬戸芸が始まるが、私達で花火を上げようと思っている。小さい花火ではなく、三尺玉。そういうことを平気で口にしてやれるような人間を前に出す。最近本島の方からよく聞かれることは、広島は最近ピカピカしていると。それは元気な人が移住してきているからだと思う。お金をかけなくても、ピカピカしている人達は勝手に宣伝する。私達のような人をどんどん使っていただきたい。

(市長)

感謝申し上げます。私も市長になってまだ新米であるが、行政は、何でこんなに時間がかかるのかと思うほど調査等をして、最後は議会へ提案して、議会へ説明して、議会が了承して初めてできる。このサイクルがものすごく時間がかかる。スピードを上げるように一生懸命取り組んでいくので、どうぞよろしくお願いする。

(所長)

小手島の方が 11 時 32 分の船で帰らなければいけないので、①についてはここで終了させていただき、②の小手島小中学校の今後のあり方について入らせていただく。

(会長)

小手島は、広島の三島の中では高齢化率が低いが、去年の 4 月から学校が休校になっている。学校が再開できたらと思うが、広島の場合は再開まで 10 年以上かかっている。小手島は休校になってまだ 1 年経っていないが、再開できたらと思う。将来的にどうか。

それと、地域の公共施設、小手島の中のメインの施設である。これを将来的に考えて、どう上手く活用していくか。特に HOT サンドルからの宿舎が改修されて使えるのではないかと。

それと、港の近くにあるプールについて、何とかして使えたら島の活性化にも役立つのではないかと。そこら辺の市の考えをお尋ねしたい。

(市長)

小手島中学校は昨年度 1 名が卒業した。絵が上手で本当に素直な性格のお子さんでいらっした。この地域の方々が良い人であるから、良い子に育ったのだと思う。

まずは、令和元年度に教員の宿舎改修をした。そして令和 3 年度に、宿舎を避難所に指定して、体育館の外壁の改修を行った。使わなければ朽ちていくが、今現在はその教員宿舎を HOT サンドル事業に活用をしてもらうことで良好な状態である。どんどん島に泊まるという形を取らなくては行けないと思っているが、今ここで言えるような具体的な内容はこれからであり、お住まいの

方々の意見も職員の方にどんどん言っていただきたい。

(離島振興担当)

小手島の特にプールは、県内でも、この広島地区の中でああいうロケーションはなかなかないと思うので、休校になっていることは残念で寂しいが、それならロケーションを活かして何か活性化に繋がれないかということは我々の中でも考えているところである。ただ、どういう風に活かしていくかというのは、最後はやはり地元の方である。今回の江の浦の待合所、これは地元の方で自立して運営していただいている。これは当初から地元の方にプランから入っていただいてやってきたので、最初から地元の方が運営するという意識が強くあり、この間オープニングセレモニーを迎えることができた。

小手島のプールも非常に素晴らしいと思うので、ぜひ小手島の方を中心にこの広島地区の方であそこを何かうまく利用できないか。トイレも含めて考えていただいても構わないかと思う。何か考えていただいて、その後どうやって運営していくのかというストーリーができれば、我々から市長の方へ提言をさせていただきたいと思う。よろしく願い申し上げます。

(市長)

あの宿舎は、例えば丸亀の市民や高松の人とかが行って泊まること、貸すことができるのか。

(離島振興担当)

今の状態ではできない。今はまだ学校施設。

(市長)

私たちも考えるが、何かいい案があれば。

(コミュニティ 5)

先ほど言った卒業生の親である。去年の3月に9年間の義務教育を終えて皆さんのおかげで卒業させていただき、その関連で私は今学校の管理を月に2回させていただいている。1年経っていないがやってみて、やはり学校があった時と島の空気などが変わっていて、終わって初めてこんなに学校ってすごく大事だったのだと改めて感じている。もちろんひとりの親として再開して欲しいという想いがあるが難しいという部分もちろんわかっている。今こういう公の場で皆さんの考えを聞いて、まだ気にかけてくれていることがわかっただけでもうれしい気持ちでいっぱいである。感謝申し上げます。

(市長)

小手島について今日言われていたことは、協議、話し合いをする。

(コミュニティ 5)

学校があったことを覚えていて欲しい。忘れて欲しくない。

(所長)

他、小手島小中学校についてご意見ご質問はあるか。

(コミュニティ 6)

小手島にHOT サンダルで最初に行った人に聞くと、やっぱり小手島が一番良かったと。最初にどの島に行くか希望とるのが嬉しいが、人情とかいろいろみても小手島が良かったと。仕事の関係

で丸亀にも仕事に行っているのだからこちらに居るが、ずっと小手島から通って来たいということを書いてきた。学校は当分使えるのであればプールの方だけでも、小手島に行ったらプールがある、地元の人が、孫が帰ってきてプール使っているというような状況で作っておけば。例えば、広島、手島、小手島の三島を繋げていけると思う。丸亀市の財産にもなると思う。ぜひそれは一つだけでも現実になるようよろしく。回答はらない。

(市長)

教育委員会から市に移し、学校が始まったらすぐ返す。そんな簡単にできないと思うが、学校が再開するときはすぐ返しますからという約束の基にできないか。

(離島振興担当)

我々の中でも検討はしていくが。

(市長)

今言ったような手続きがやはりいろいろ必要である。

3. 第2部 テーマ選択方式による意見交換

(所長)

ここで手島小手島の方は船の都合で退席させていただく。

続いて、第2部、テーマ別による意見交換。テーマは地域の支えあい、地域福祉について取り上げさせていただく。まずこのテーマとした理由を質問票の最初に記載しているので、読み上げさせていただきます。

高齢者や一人暮らし世帯が増える中、住み慣れた島で出来る限り暮らし続けるために、これまで以上に地域の支えあいが大切と感じている。しかし自治会をはじめコミュニティ組織の縮小や機能低下が進んでおり、地元NPOが運営するデイサービスセンターが果たす役割がこれまで以上に重要になると考える。こうした現状から、5年後10年後を見据え、当施設に求められるサービスや、施設の存続を含めた今後のあり方を考えていく必要があると感じている。

そうした中、現在地域の取り組みとしては、NPO 石の里広島でデイサービス事業、介護予防体操、コミュニティバスデマンドタクシーの運行、ガソリンスタンドの運営、民生児童委員が島の高齢者世帯の見守りをやっている。島外の企業になるが、アーチ(株)が高齢者支援課から委託を受けて、認知症カフェをコミュニティセンターや青木の集会所で行っている。

今、紹介した取り組み事業の中で、今回はNPOが行っているデイサービス事業に焦点を絞って、質問を3つ挙げた。読み上げさせていただいた後、市長より回答をいただいた後、この3つについてご質問ご意見等をお伺いしたいと思う。よろしく願います。

広島デイサービスセンターは、平成13年4月よりNPO 石の里広島が市からの委託を受け、管理運営を行っている。センターでは昼食や趣味活動、入浴サービスの提供をしており、住民の寄り合いや憩いの場となっている。一方、島内の過疎高齢化が急速に進んでおり、デイサービスの利用者も減少を続けている。施設についても、老朽化や耐震性不安が拭えない状況である。

まず1番目の質問は、現在、施設を利用できる方は介護認定を受けていない65歳以上の方が対象となっているが、今後、対象者のさらなる減少が予想され、NPOとしても利用増に向けた新たなサービス等を検討する必要があるが、市としては、利用基準やサービスの見直しについてどうお考えか。

続いて質問の2、建物については、広島西小学校を改修し、1階部分をデイサービス、2階部分を石の里資料館として使用している。建築から40年以上を経過し、これまで修繕や工事を繰り返しながら使用している状況の中で、今後は特に耐震性の問題が危惧される。こうした現状から、耐震工事や建て替えなど施設改修についてお考えは？

最後3番目は、全国にはこうした課題を抱える離島が数多く存在していると思うが、福祉や介護、医療の分野において、先進的な事例があればご教授をお願いしたい。

(市長)

デイサービス事業が将来的な見通しの不安を抱えていることは十分理解している。もちろんこれは、高齢化率は島の方が高いが、丸亀市全体でもいえることであるので、真摯に誠実に取り組んでいかなければいけない。

老人デイサービスセンターについては設置条例の第1条に、在宅の虚弱老人等に対し、通所による各種サービスを提供することによって、その者の生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的精神的な負担の軽減を図ることを目的とする。1条のこの言葉が全て。これを維持するためには、広島デイサービスをどうやっていくといいのか。専門的になるので、担当から説明する。

(高齢者支援課長)

日頃より、広島デイサービスセンターの運営について、ご尽力いただき感謝申し上げます。

市長が話したように、老人デイサービスセンター、こちらは在宅生活を望まれる方のサポートをするために、お風呂やお食事の提供をする運営をしている。ただ、介護保険の介護認定を受けてない方で65歳以上の在宅の方が月2回程度、ご利用いただけるサービスになっている。

原則としては介護認定を受けてない方となっているが、離島でもあるので、こちらの方から丸亀の方におわざわざ行くのが難しいというご事情もこちらも承知しているので、広島地区の方で介護認定を受けた方も一部ご利用されていることについては承知しており、そこは緩やかな運用ということで実施している。ただ介護保険制度があるので、安全に使っていただきたいことは大前提となり、石の里の方にはご協力を今後ともよろしくお願いしたいと思う。

今後については、先ほども言ったように、介護保険制度の認定を受けた方も使えるという形で緩やかな使い方になっており、それ以上に利用制限がないとなると、おそらく想定されているのは、交流人口、関係人口の増加という意味で、島外の方のデイサービス使用として、お風呂を使うであるとか、島にこられた方が食事をできる場所として1つ利活用できないかというお話があるのかと思っている。第一義的にはデイサービスセンターになるので、デイサービスセンターの利用制限をすることなく使えるような状態であれば、運営していただいているNPOの許容範囲の中で実施すること、利用制限を少し緩やかにすることは可能と考えている。

ただ、お風呂については、島外から来ていただくとなるとそれなりに費用を徴収するようになるので、公衆浴場と同じような形で運営する必要があり、保健所の検査などのハードルがあると思うので、今すぐ出来るかとなるとお答えしかねるところがある。

(コミュニティ 6)

要は、融通はやはり利かない。

(高齢者支援課長)

融通は利かせるが、ハードルがある。

(高齢者福祉担当)

課長が説明申し上げた通り、設置条例があるので施設の目的そのものは決まっているが、例えば指定管理者である NPO 法人が自主事業でお風呂を開放したいとか、食堂を広く開放したいという届け出があれば、市としては目的外使用等で許可はできる状況にはある。

ただ、他の法律、公衆浴場法や食品衛生法等の絡みもあるので、その辺をクリアしてからでないと対応できないことで、直ぐにはお答えしかねるという課長の説明であった。可能性はあるが、クリアしなければいけない課題もあるので、今後地元等の要望を受けながら一緒に考えていきたいと思っている。

(コミュニティ 6)

年齢制限の 65 歳云々は取っ払うことはできないか。

(高齢者支援課長)

生きがいデイサービス事業が概ね 65 歳以上という形になっているので、その概ねというところの解釈にはなろうと思うが、それが 40 歳は大丈夫かと言われると、運用的には難しい。

(コミュニティ 1)

65 歳以上ということでやってもらっているが、1 人月 2 回まで補助金の制度があるので、あまり若い人でその補助金を使えるかどうか疑問がある。それと、確かに立派な風呂であるが、オープンにするということは、それだけ管理する人がいるということで、そこは考えなくてはいけない。どうぞ入ってください、と放っておいていいのであれば何でもないが、中には食品もある。

(コミュニティ 6)

今の議論に合っているか分からないが、青木地区の人間だが、センターの利用者がだんだん減っていると書いているが、受ける資格を持っている人がたくさんいる。島外とか云々言う前に、島内の人にもっと利用してもらうような考え方を持った方が利用者は増えるのではないか。

(高齢者支援課長)

NPO 法人の方でも営業活動をしていただいているということで、努力はいただいている。登録人数につきましては減少傾向にはなっているが、延べ利用者数は令和 3 年から令和 4 年にかけては若干回復基調になっているので、利用の方については促進されている。登録者数を伸ばすことについては、今後努力していただければと思う。

(コミュニティ 6)

自分も資格を持ってからもう 5 年間ずっと行かせてもらっているが、だんだんやはり来ていた

人に会えなくなる、そういう事例の方が多い。新しい人が入るより。

(高齢者支援課長)

生きがいデイなので、基本的には介助なしで入っていただけるということで、身体的な課題で通えないことになるのは申し訳ないと思っている。

(市長)

自分で行って自分で出来ていたことが、出来なくなった人も結構いらっしゃる？

(高齢者支援課長)

そこは介護保険制度の方で利用していただく。それはこちらの島にはないので、丸亀の方に通っていただく、もしくはあちらの施設という形になる。

(コミュニティ 4)

私は島に移住してものすごく感じたことがある。青木が一番人口の多いところであるが、おじいちゃん、おばあちゃんたちが、道端に座って私達移住者をものすごく喜んで見てくださっている。そういう高齢の人たちが必ず言う言葉を耳にした。「この島が好き。最後までいたい。いさせてもらえないか」という話をたくさん聞いた。今はデイサービスが議題になっているが、島を本当にこれまで一生懸命盛りたてて、最後まで住みたいという人のために、ステイができるような場所はできないか。

みんないなくなってしまうたら、ものすごく寂しい。もう青木では6人くらいいなくなってしまう。その人たちは道端に座っていて、もうちょっと日が高くなってから歩いたほうが良いよとか、本当にそういう優しい声をかけてくださった人がいなくなってしまう。ものすごく寂しい。野球の話で申し訳ないが、長嶋さんは今、徳島の太平洋側のものすごく自然豊かなところでお過ごしだそう。広島もそういう場所だと思う。私がなぜこの島へ来たかという、人の温かさや自然の豊かさに惚れ込んできた。絶対に他にもそういう人達がいる。“あそこに行ったら最後まで阿波踊りしながら頑張っていける”そういうところにならないかと今思っている。そうじゃないと、人口が減っていなくなってしまう

(高齢者支援課長)

3番目のところで先進事例の紹介をというご要望があったので、引用している。こちらの方も過去そういったサービスのことをお調べになった、やりたいということを知り及んでいるが沖縄県の竹富島というところで、小規模多機能型居宅介護支援事業所を立ち上げている。この小規模多機能は、デイサービスセンターと訪問介護、ヘルパーの支援、あとショートステイ、そういう複合施設があり、島民の方がNPO法人を立ち上げて、小規模多機能を運営されている事例がある。

もし今後、広島デイサービスセンターの拡充という形で運営ができるのであれば、そういう方法もあると考えている。ただハードル的には運営をするための人的な問題、外から来たらいいというお考えがあるかとは思いますが、実は老人デイサービスセンターができた時最初3年間、民間の事業所がしていただいていた。こちらの方が人の確保が難しいということがあり、資金的なことを積んだとしても維持ができないということで、撤退されたという過去の経緯がある。この過去の経緯を考えると、小規模多機能をやるとしても、島民の方を中心に外から人材を獲得しながら

実施していくという、そういう青写真ストーリーができれば、こちらの方も話が1歩前に進むのではないかと考えている。

(コミュニティ4)

私はいろんなところで見えてきたが、高齢化といっても日本はそこまでいってないような気がする。私は今年70になるがものすごく元気である。料理を作れと言われたら料理作れるし、田んぼしろと言われたら田んぼできる。そういう人達が島に山ほどいる。だからそういう島の人達を活用して、自分の島は自分で守り、最後まで楽しんで暮らすという、これからの老人施設を考えられたら。緩やかに最後まで暮らせるためには私達が労力を使わなくてはいけないし、今聞いたことはその方向で行けるなら。

(高齢者支援課長)

運営は申し訳ないが島の方ということになるので、島の方の同意があつてからにはなると思う。

(コミュニティ4)

やはり泊まる場所がないといけない。宿泊施設ができれば良いと思う。

(コミュニティ3)

こちらから提案があるのですが、私たちは1年前に移住してきて、島の診療所の先生からも直接電話いただいたりして、いいところだということで安心して移ってきたが、実際来てみると150人不足、なおかつ高齢者が8割を占めている。こういう現状の中で、聞いた話だと高齢者の半分以上が、この後丸亀の方に移動するという計画を聞く。この先高齢化にともなって医療の問題や住まいの問題がいろいろあるであろうが、そういうことを聞くと、私たち移住してきた人にとっては非常に不安と危機感。老人ホームの必要性が丸亀でも言われていたが、毎年高齢者が増えていく中、今手を打たなければ逆に島の人たちはもちろん、我々みたいな移住してくる人たちも含めて、広島が人口がこれだけ減っていくということは、島の存続に影響を与えるほど重大な課題となると思う。

今少し話が出ていたが、新しい形の老人ホームという形で提案したい。いわゆる老人ホームの既存の情報だと入所して、あとは介護してもらいながら死を待つだけ、という形がほとんどだと思う。それではなく、65歳以上の健康な人も含めて入れる施設、なおかつ健康な人達が自分達の労働力を提供する。65歳以上であれば、今までの経験や体験やスキル、例えば農業や医療、介護、清掃など、それぞれ経験してきているはずなので、得意分野を持ち合っていて、そういう労働力を提供することで入所費用を極端に安く抑える。極論から言えば国民年金ぐらいで入れるような金額で抑えられる代わりに労働力を提供していただくと、そういう施設になればいい。高齢者もみんな仕事を求めている、生活のために稼がなくてはいけない部分ももちろんあるので、そこを含めて労働力を提供することで、逆にわざわざ外に仕事も探しに行く必要もなく、仕事しながら、なおかつそこに医療も絡んでくれば、自分達の好きなことをやりながら生き生きと将来に向けて満足できる一生を送れるのではないかと。そういう施設を、なんとか作っていただきたい。

場所の問題、いろいろな問題があると思うが、実際施設を作っていただければ、運営に関してさぬき広島笑学校の形で話題になり活動しているメンバー達が運営に携わっていただければ、私達

も協力してやっていきたいと思うので、そういうことで地元の人たち含めて運営に携わっていき、新しい形の仕組みを作れるのではないかと。

自分達の生活も自分達で自給自足をとれるような形であれば、先ほど言った教育とかそういった名前でも動けるような。今のいろんな問題について、若い人達や子育て世代を一生懸命移住促進という形で求めていると思うが、今この島でもそうだが、日本全国の中でも高齢者がどんどん増えてパーセンテージが増えていっている。そうすると1年ごとに高齢者が増えていくわけなので、変な話、入所する人達は探さなくてもどんどん増えてく。島にいる人達もわざわざ丸亀に行って、家を都合してまで向こうで生活しなくても、ここの島で本当に完結できる、本当のwin-winな形が取れると思うので、市長にお力添えをいただいて形にできないか。そういう提案をしたい。そうすれば、広島に限らず本市には、すごくいい景観もあるし、外からの旅行者もあるだろうし、そういう施設ができれば。私自身は千葉県から来ており、松戸市は『すぐやる課』という形でできて全国的に有名になった。丸亀市が面白い施設を作ったと日本中に発信できる。多分こういう事例はない。作っていただければ、市の財産としても影響があると思うので、是非とも実現させていただきたい。

(市長)

今言われたことはものすごく良いと思う。その実現は可能かどうか担当から。

(高齢者支援課長)

高齢者の方の住まいの問題は、全国的に過疎地域だけでなく都市部の方でもある。それをカバーするために、安価な入居価格で入れるホームは民間団体を中心に運営されている。そういったところの労働力は入居者の費用を基にやっているもので、今ご提案のあった、入居されている方が労働力を提供することによって自分たちで維持管理をすることが実現可能であれば、前向きな検討はできる。ただ、健康寿命が幾ら延びたとしても、80歳以上になると介護保険を使う方が増えてくる。今寿命もかなり伸びてきており、健康寿命ではない時期が8年から10年ぐらいあると言われているので、その部分がいかにカバーできるのか、労働力が担保できないとなかなか実現するのは難しい面もあると聞きながら感じた。

(市長)

可能ではあるか。

(高齢者支援課長)

労働力の確保ができれば。

(市長)

提案されたことが可能なのであれば、しっかり考え検討する。

(所長)

質問2の建物の耐震性、改修工事について回答いただきたい。

(市長)

耐震工事について、丸亀市の公共施設等総合管理計画で皆さんに頭に入れてもらいたいところだけ少し読み上げる。「利用者の安全と衛生管理面を最優先に、利便性の向上のため、施設の安全

点検や修繕等を計画的に実施し、適正な維持管理を図ります。」

要は、総合管理計画の中にもそういうことを謳っているということは、耐震性が無いものは耐震できるような形を取っていかなければいけない。旧広島西小学校の建物は40年。ここは耐震性があるのか。

(所長)

耐震調査もまだしていないが、40年以上ということで昭和56年以前の建物であるので、耐震性がない可能性が高い。

(市長)

調査もしていないのであれば、調査はしても良いのではないか。お金がかかるのか。

(所長)

手島の自然教育センターの耐震調査をした際は、100万ぐらいであったと思う。

(市長)

まずは調査をしなくてはいけないと思うが担当としてはどうか。耐震性がないと危険が伴う。

(高齢者支援課長)

耐震の診断について、まずは方向性が決まってから診断をするというのが市の方針になっているので、現状としては、安全に維持管理をしていただきながら運用していただくことが一番になっている。方針的には長期的な人材の確保であるとか、今の運営団体の中長期的な経営が見込めるようであればそういうところが担保されるので、調査をした上でかかるべき対応を次の段階で考えていければと思っている。

(市長)

少し難しく言ったが、要は今すぐ調査できないということか。

(高齢者支援課長)

方針が決まってからになる。

(市長)

その方針は誰が決めるのか。

(高齢者支援課長)

最終的には市長になるが、島の方が、こちらのデイサービスセンターを中長期的に運営できることが確認できればということになると思う。

(離島振興担当)

老朽化、それと耐震の有る無しといった施設の安全性の問題と、もう1つはそこを継続的に運営できるかという問題、2つの問題があると思う。これは密接に関連しているが、施設については来年度から指定管理で3年間は今の状態で運営することが方針として決まっていることなので、その次どうするかが大事になってくると思う。

ただ、その3年間のうちに例えばボイラーが壊れるなど大きく工費が必要となるケースも出てくると思うが、こういう状態をこれからも続けていくのか、或いは新設をするのか。新設から廃止まで、選択肢としてあると思うが、運営の部分は来年もしていくので、改善できるところは改

善できるはず。先ほどの話の中でいい案をいただけたと思うが、例えば地元住民を中心にされている笑学校、あれだけの方々がこの広島に寄るような会なので、その中でデイサービスセンターをこの3年間で何か改善できないか、もう少し夢が描けるような運営ができないか。実績として少し芽生えてきたら、次のことが考えられると思う。

(コミュニティ4)

そんな話も出ている。

(離島振興担当)

どうしても我々としては、今の実績、実態を踏まえながら、最終的には市長に大きな政策判断をしていただくことになるので、やはりそういったことを3年間で地元の方でできることをしていただくのは大事である。

(コミュニティ7)

結局その時に、20年30年経ってもデイサービスを維持管理できるかどうかの問題ということ。要はそれができるのであれば建て替える。

(離島振興担当)

建て替えとなると大きなお金がかかるので、そこはその時のどれだけその施設が利用されているかなど、現実的な判断をしていかなければいけない。

(コミュニティ7)

補強にしてもそうだろう。

(コミュニティ8)

今のデイサービスの状況のまま維持することは難しいと見聞きする。その中の改善として、コミュニティで寄り集まってお話ししたりする部屋があったり、お風呂だけ入りたいということがあったり、島にお店がないのでお店を開業するという処があったり、石の里が2階にあるが、それは実際に見たいといっても見られないらしい。管理する人がいない。なので、そういう分業みたいな形でデイサービスが利用できたら、そこで1日ずっといるということは、なかなかできる人とできない人がいるので、お話をしてみんなの顔を見たい、お買い物だけの処を利用したい、お風呂を利用したい、石の里を見てみたい。私は資格を持ってないが、エステとかそういうのを体験した関係で足や手のマッサージくらいはできるので、そういう体験コーナーみたいな部屋があるなど、そういうことも1つの方向性としては考えられるのではないか。

先ほど言われたような大きな施設が建つに越したことはないが、耐震性の審査もしていないようなので、それをした上で持続するという事は島の景観にそぐわない形ではないと思うが、トレーラーハウスを繋ぐとかであればそんなにお金がかからないと思う。古民家の改築はものすごくお金がかかるが、トレーラーハウスであれば耐震性もあり、トレーラーハウスでデイサービスやショートステイなど、そういうことをやっているところはないと思う。私も母親を抱えており、今は丸亀のショートステイに行ってもらっているが、介護している者は本当に大変である。「おばあちゃん大人しくていいな」と言われるがそんなものではない。なので、島にショートステイがあれば丸々1日丸亀で潰さなくても使いやすい。

これからお年寄りが増えてくるので、ちょっとしたステイができるところを併設した施設が近隣に欲しい。高いお金を出して建物を待っていたら、ここにいる3分の1から半分近くはいなくなっていると思う。壮大な計画を立てなくても、本当に近隣でみんなが利用しやすいような、そういうトレーラーハウスみたいなものであれば、最後までこの島で住みたいというお年寄が多いので利用しやすいのではないかと思います。

そして移住をしてくれる人がいるのに越したことはないが、体験移住、体験入学が今あるが、2週間ぐらい小学校や中学校に来てもらって、その時のその家族が住む家を確保さえしてあげれば、短期間の体験入学、体験移住も考えの中に入れてもらっても嬉しいかなと思う。

(市長)

実は私も親の介護をしていた。現在は施設に入っているが、入るまでは施設には入れないと思っていた。1年半母親と一緒に寝て、様々な経験もしているので、今言われたことは、身に染みることである。検討協議させていただく。

(高齢者支援課長)

施設になると介護保険法の中で設置基準があるので、クリアすべきものがトレーラーハウスの場合は想定していないので、どんなものがあるかは研究させていただこうと思う。貴重なご意見いただき感謝申し上げます。

(市長)

トレーラーハウスは安いのか。

(コミュニティ 8)

安くはないと思うが、建てるほどの金額ではない。

(コミュニティ 4)

要するに、実績を作っていくことにより未来に繋げる。そういうことは今から私たちが計画して、お店が欲しいとかお風呂もいろんな人が入るようにして欲しいと言ったら、今の施設で可能であるか。

(高齢者支援課長)

そこはNPO法人との合意、島の方との合意といった合意形成が重要かと思う。

(コミュニティ 2)

この場で結論を出すのではなく、今言った意見を踏まえた上でNPOと意見を網羅して、積み重ねていって島の人が一番いい方法を考えていく。その時は高齢者支援課にも来ていただいて指導していただく。今この場ではいろんな意見もあると思う。

(所長)

デイサービスについては今後の3年間NPOの指定管理に決まっているのでNPOと地元の意見、あと担当課の配慮もいただきながら、今後の運用方法や耐震改修についても3年間のうちに早急に検討していきたいと思うのでよろしく願います。

最後、3番の先進事例については先ほど話があったが、資料が必要であればお渡しできるのでセンターまで。時間がまいったので、市長と語る会を終了させていただく。今日の会でご意見があ

ればセンターまで

(コミュニティ 2)

出来るだけ早く打ち合わせを決めてもらって。コミュニティと NPO と。

(コミュニティ 1)

衛生面やいろんなことを考えていかななくてはいけない。その辺、今話を聞いていたら簡単に考えている。市に出す書類ひとつとってもなかなか難しい。理想的な話、我々もこういうことをして欲しい、ああいうことをして欲しい。とてもじゃないが、今話を聞いていたらほとんどが無理と思う。今すぐは無理。おそらく我々が生きている間には無理ではないかと感じる。簡単なものひとつとっても丸亀市は難しい。進んでいかないという感じ。

(コミュニティ 2)

方針は3年後と伸ばす必要があるか？

(離島振興担当)

それは運営する中で担当課と相談していただきながら。平井会長は運営に実務としてあたられているので大変だということがお分かりだと思うが、そこで可能なものは実現していくのは何ら構わない。

(コミュニティ 4)

まずは話し合い。

(所長)

会長がおっしゃったように課題はたくさんあって、関係者と協議しながら考えていければと思うのでよろしく願い申し上げます。それでは終了させていただきます。